

各種意見・提案

1 【仮称】ミライ構想の方向（素案）について

（1）めざす姿

- ・山村地域の農業の担い手確保のためには、次世代の担い手の育成が必要不可欠である。そのためには、営農が成立するよう、所得向上や農地集約の取組を行う必要がある。また、半農半業など農業と他産業の組み合わせで、一定の収入水準を確保する仕組みも必要。
- ・個人単位での農地保全是限界があるため、集落営農等の実施団体を立ち上げ、運営していくための支援に期待する。
- ・農業振興地域除外と農地転用を実施しないと開発行為（宅地造成等）が制限されるケースもあるため、農業振興地域除外・農地転用の基準緩和や運用の工夫が必要。
- ・耕作放棄地を都市住民との交流スペース（動物ふれあい体験、キャンプ等）に利用できるように農地利用に関する規制を緩和してほしい。
- ・空き家バンク利用者、移住者が農地を取得する際の条件が厳しいため、条件緩和が必要。

（2）まちづくりの基本的な考え方

- ・集落の担い手減少により必要に迫られ、令和4年度に阿蔵自治区の阿蔵組と高野組が合併した。今後もこのようなケースは増えることは確実なため、同様事例の情報提供や、関係者合意形成の支援等の伴走支援に期待する。
- ・行政が組織する既存団体の役職が多い。地区コミュニティ会議の各種実行委員会や地域会議等、市による割り当ての役職だけでなく、民生委員や国勢調査員等、国による割り当ての役職についても統廃合や負荷軽減を検討いただきたい。
- ・地縁型組織の役割を再検討するだけでなく、新たな担い手の育成と掘起しを考えるべきである。子育て・福祉・産業などテーマ型で、住民主体の組織づくりに向けて、行政も伴走支援していただきたい。
- ・定住を考えると、お助け隊など地域での共助の仕組みづくりを行い、地域内住民、特に増加している一人暮らし高齢者など、皆が暮らし続けられるよう検討が必要。

2 都市構造

（1）都市構造の実現に向けた方針

- ・基幹バスのおいでん・名鉄バスは通勤通学者や定期通院者が使いやすい運行形態になるように検討いただきたい。
- ・地域バスのしもやまバスについては、基幹バス停沿線非住民が基幹バス停で乗り継げることや、地域内拠点を移動しやすいようにしていただきたい。

- ・「物」の流れについては福祉的視点で、買い物難民が生まれないように生活必需品が入手できる流通機能（移動販売車や各戸訪問等）や交通機関のあり方を検討していただきたい。
- ・下山では、基幹バス沿線は生活の拠点で、三河湖周辺は観光の拠点と考えることができる。その場合、生活の拠点は公共交通の確保と、観光の拠点や中継地点には道路等の整備を行うなど、メリハリのある投資・支援を行う必要がある。

(2) 都市構造のイメージ

- ・情報通信技術の発展は目覚ましいが、電波状況が悪い住居や、特定の通信会社しかつながらない観光施設等がある。地域内において、住民や関係・交流人口等、特性に応じて不自由なく通信を使用できるようにしていただきたい。
- ・通信インフラの強化によって、デジタル技術を活かして下山地区の住民の生活をより良いものへ変革させるDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進していく必要がある。学校や塾のオンライン化等の教育機会の確保、オンライン診療等の医療機関へのアクセス、自治区関係会議のオンライン開催等の地域運営の効率化を通じて暮らしに必要な機能を確保したい。
- ・DX化を誰ひとり取り残さない施策とするため、デジタル機器を各家庭に普及させること、それらの機器の使い方を習得できる機会を創出すること、一人暮らし高齢者等の見守りに活用すること等について検討してほしい。